



ボランティアコーディネーターだより1学期号をお届けします。このおたよりでは、私たちVCの役割やVCがかかわった活動を紹介していきます。学期ごとに発行しますので、お楽しみに！

## 1学期のコーディネート件数

# 13件

### ■ VCの役割

町田市では、学校・家庭・地域が一体となり、地域の学校応援団として、地域ぐるみで子どもたちを育てていく「地域学校協働本部事業」を推進しており、たくさんの地域の方々が学校教育にかかわってくださっています。この事業を円滑に進めるために、町田市の各学校にはボランティアコーディネーター（VC）が配置され、VCは地域と学校を繋ぐ役割を担っています。

### ■ VCは具体的に何をしているの？

鶴二小では、主に生活科、スキル科（総合的な学習の時間）、生活単元学習、社会科（学年による）や図書の授業で地域のお力を借りています。これらの活動を充実化させるために、日中動きがとれない先生方に代わり、協力先への依頼や打ち合わせをして、実施に向けてさまざまな調整を行います。また活動日にゲストティーチャーの動きがスムーズになるように実施対応をしています。

ちなみにVCは活動日にカメラを持って同行するため、子どもたちからは「カメラマン」と勘違いされることも多々あります…。

### ■ 地域との交流

生活科（1・2年生）、スキル科（3年生以上）、生活単元学習（なかよし学級）においては地域との交流活動が、社会科においては共感的理解と多角的視野を効果的に育成するために、生の声が必要となる場面があります。学習指導要領や町田市の教育プランに則った活動ですが、地域の方との交流が子どもたちの学びにとっても効果があるのです。体験して知ることの大切さ、その方の思いを直接聞くことで分かることなど、交流することでたくさんの気づきがあります。お力を借りるばかりではなく、地域の声にも向き合い、いろいろな形でお返しができるようにVCは提案し続けます。

### ■ スキル科とVC

鶴二小では、総合的な学習の時間のことを「スキル科」と呼んでいます。スキル科では、自分自身を見つめ、他者とかかわりながら活動することを通して、自分のよさ、他者のよさを認め、自分のもっている力を活用しながら目標実現を進めていく適用的学習力を養います。

地域との交流活動が必要な場面は、生活科や生活単元学習では1回程度となりますが、スキル科の活動は学期や半年にわたる長期間となるため、3年生以上では地域との交流回数が3回以上に増えます。地域の方のお話を聞いた後、自分たちで考えた発案を基に、学びを調整しながら活動を行います。そして活動内容をまとめ、発表をします。先生方と協力先との連携が大切になるため、時には提案もしながら、充実した活動となるようサポートをしています。